

天理大学ふるさと会海外研修報告書

アメリカの一流大学の学生の学習意識と学生新聞の重要性

—コロンビア大学とハーバード大学における現地調査を中心に—

国際学部 外国語学科 英米語専攻

2回生 栗山佳子



はじめに

1. アンケート内容

2. アンケート結果

3. お世話になった方々へ

おわりに

はじめに

今回、ふるさと会海外研修生として貴重な経験をさせていただきありがとうございました。約2週間という短い研修期間が、私の人生の分岐点であったように思います。初めて自分で作る英語でのアンケート調査、知らない国で、異なる言葉で、知らない人に話しかける勇気。帰国した今、それが全て私の自信とさらなる学習意欲の元になっています。

ふるさと会海外研修へ応募したきっかけは、友人の留学相談で国際交流センター室に行ったことでした。また、外交官養成セミナーに所属していたおかげもあり、もっと学習して私自身が飛躍したいと考えていました。天理大学に入り、私の目標となる先輩や、同じ志を持つ仲間に出会えたこと。今の私が勉学に励もうと頑張ることができるのは、天理大学で出会った方々のおかげであると思います。

研修先は、ニューヨークにあるコロンビア大学、ボストンにあるハーバード大学を選びました。この研修の目的は、2つありました。1つ目に、世界から優秀な学生が集まる2大学で勉強する学生は、どのような学習意識を持ち、学生生活を過ごしているのか。アンケートを用いて調査する。2つ目に、私が将来国際ジャーナリストになるための1歩として、全米で1番、2番目に古くから学生新聞を発刊している編集局での調査を行うことでした。

両大学へはバスと地下鉄を使用して行き、宿泊先はニューヨークセンターとボストンで布教所を設立されたアレハンドロさんのお宅で約1週間ずつ泊まりました。宿泊中、センターの福井所長先生やスタッフさん、アレハンドロさんなど、多くの方々と交流する機会に恵まれてとても充実した2週間を過ごすことができました。また、ニューヨークとボストンはかなり街の雰囲気が違い、良い部分も悪い部分も含めて、楽しみながら街を歩くことができました。

1. アンケート調査内容

アンケート調査は紙面と一部 Google Form を使い、始めにコンセントフォームを渡してから行いました。両大学のメインキャンパスを周り、座っている学生を中心に話かけました。このアンケートは事前に『アメリカの大学・ニッポンの大学』（荻谷剛彦著者）『なぜ日本の学生は世界一勉強しないのか』（辻太一郎）を購読し、それらを基に作りました。アンケートは一人あたり5ページあり、学生生活中心に設問を作成しています。どちらの大学もファーストウィークで、新入生が寮へ引っ越しの作業をしていたり、サークル活動の勧誘などが行われていました。アンケート調査を行いながら、個人的に聞きたいことなども質問しながら過ごしました。



質問内容

<基本情報>

・性別、年齢、生まれた場所、学年、

<質問内容>

1. 授業時間を除く1日の勉強時間（平日+休日）
2. 課題に充てる1日の時間（平日+休日）
3. 何のために勉強しているのか（選択肢）

4. 図書館で勉強する頻度（1週間）
5. 図書館で勉強にあてる時間
6. 図書館を利用する目的（選択肢）
7. 授業に関連する参考書の読書時間（1週間）
8. 授業とは関連のない読書時間（1週間）
9. 図書館以外で勉強する場所
10. 授業に関連する読書ページ数（1日）
11. 授業に関連のない読書ページ数（1日）
12. SNSを使用する頻度（1日）
13. どのSNSを使用するか（Instagram, Twitter. など）
14. SNSを使用する目的
15. SNSから受ける影響（選択肢）
16. どのようなボランティア活動行っているのか（選択肢）
17. ボランティア活動から得た事は（選択肢）
18. なぜアルバイトを行っているのか（選択肢）
19. 何のためにインターンシップを行うか（選択肢）
20. インターンシップの内容
21. 大学を卒業後どのような職種に就きたいのか（選択肢）
22. 大学生活で心配していること（選択肢）
23. 大学生活で重要視していること（選択肢）
24. どのくらいの頻度で学生新聞を読むのか
25. どこから情報を得るか
26. 学生新聞の印象

2. アンケート調査結果

*性別と国籍は多種多様なので省きます。

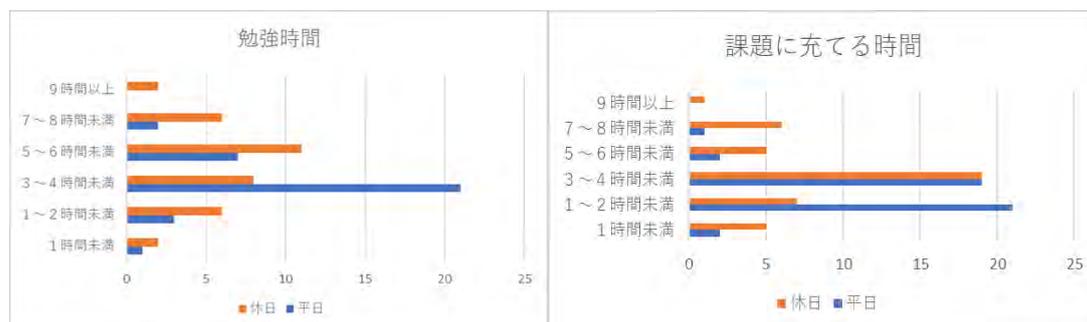
・年齢

18歳～25歳（31名） 26歳～30歳（5名） 無記名（10名）

・学年

1年生（2名） 2年生（10名） 3年生（15名） 4年生（5名） 大学院修士課程（6人） 博士課程（4人） 無記名（4名）

勉強時間（1日）



参考文献である辻太一郎著者の『なぜ日本の大学生は世界でいちばん勉強しないのか』では、日本人学生がどのくらいの時間を勉強に充てているのかをグラフなどで記されています。日本人学生は「1週間に10時間以下の勉強時間(p.31)」であるのに対して、「アメリカの大学生は1週間に11時間以上の勉強時間(p.31)」であると記されています。調査の結果から、コロンビア大学とハーバード大学の学生は、1日に3~4時間の勉強時間が最も多く、1週間では約21~28時間あたりの勉強時間であることが分かります。また加えて課題に充てる時間は1日1~2時間未満が最も多く、3~4時間が2番目に多い。1週間あたり7~14時間は課題のために時間を充てていることも分かります。コロンビア大学やハーバード大学の学生に限らずアメリカの学生は、日本人学生よりも多く勉強に時間を費やしていることが分かります。

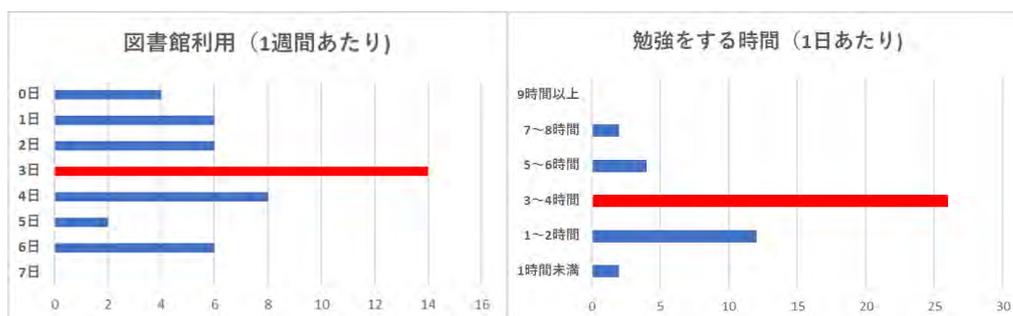
学習目的

選択肢（複数回答可）

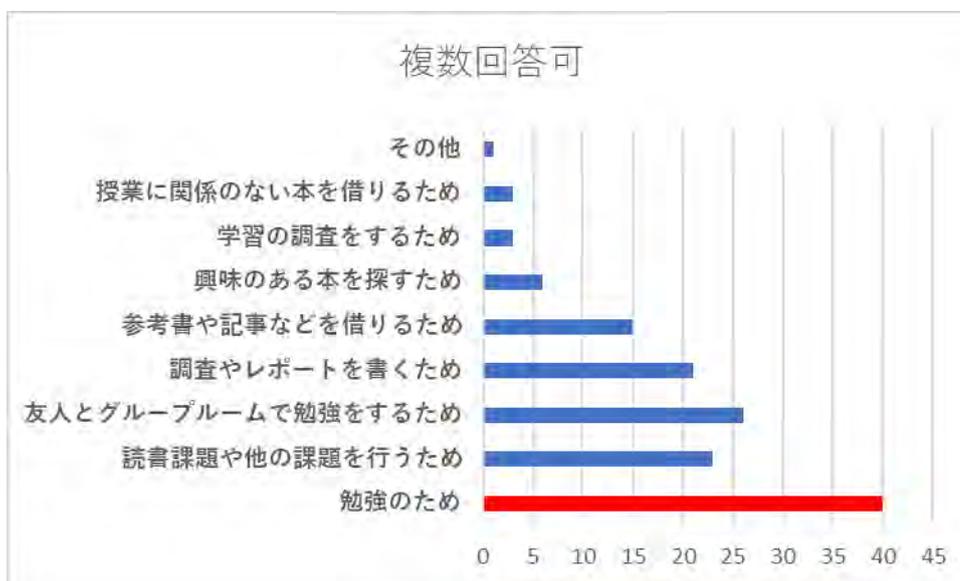
- ・将来の職業やキャリアアップのため（33票）
- ・自分自身の成長または自己実現のため（31）
- ・将来の夢を叶えるため（24）
- ・より良い教育をさらに受けるため（23）
- ・良い給料を得るため（12）
- ・共通知識や国際知識を養うため（6）
- ・国際性を身につけるため（4）
- ・精神的成長のため（2）
- ・インターンシップのため（1）
- ・その他（4）
- *十分なスキルを身につけて、社会に影響を与える人材となる可能性を持つため
- *授業で良い成績をとるため
- *より良く教育された国際人になるため など

また学習目的の結果からは、自身の夢や目標のために勉強していることが分かります。将来の目標をしっかり持っていることで学びたいという意欲が湧いてくるのだろうと感じました。何かを学習するという作業において、目標を立てることは必須条件であるのだと改めて実感しました。特に自分自身の将来像をあいまいでもいいから想像することが大切であるのだと思います。

図書館利用について

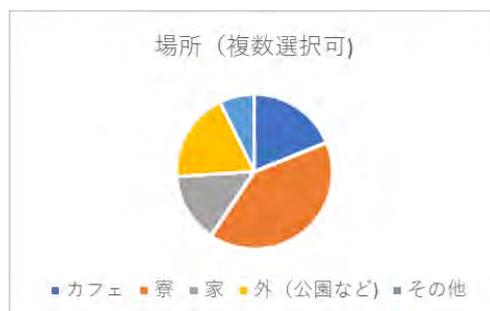


図書室を利用する目的



私が考えていたよりも、図書館の利用頻度は低いと思いました。しかし、学生は図書館を利用して勉強するよりも、各自寮で行う勉強時間の方が長く、授業が終わる時間も遅いことから図書館の利用頻度が低く、学習時間が短いのだと分かりました。

勉強を行う場所一覧（図書室以外）



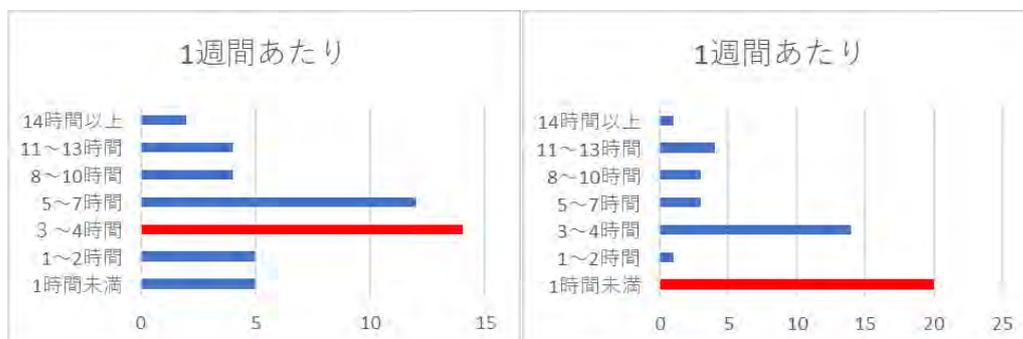
キャンパス内にはとても大きい図書館が設置されており、窓越しから学生の姿を見ることができました。多くの書籍が並べられており、とても魅力的でした。私もこの図書館で勉強したいという気持ちにもなりました。図書館以外にもキャンパス内のいたる所で勉強している学生がいました。最も、学生寮や家で勉強している学生が多い割合ではあるけれど、少し驚く場所で勉強している学生もいたり、自分の学習環境を決めておいたり、変えたりすることでさらに学習の集中力が保たれるのだと思います。



読書について

授業に関連のある読書時間

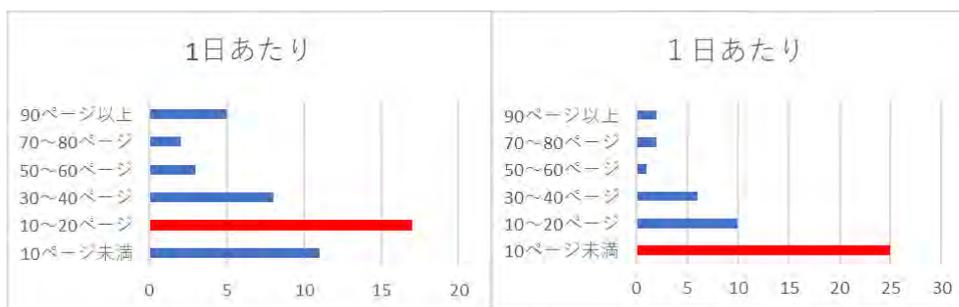
授業に関連のない読書時間



読書ページ数

授業に関連する読書ページ数

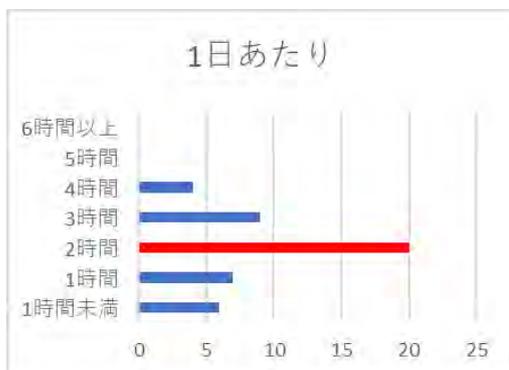
授業に関連しない読書ページ数



読書課題は、私達と同じように行われていると思いました。しかし、1日あたり10から20ページ、1週間では約70から140ページはかなり読書量が多いと感じました。極めて少数ではあるけれど、1日約90ページを読む学生もいるのでどのように読書課題をこなしているのかという疑問も生まれました。留学を経験したことがある人からは、読書課題はページ数が多いため、始めと終わりを読んで大まかな内容を把握する読み方をしている学生がいるということを知ったことがあります。結局のところ、日本人学生よりも読書課題を学生はかなりこなしているということ、また授業に関連のない本を少なからずとも読んでいる点において、本を読んで知識を養うことも大切な勉強作業であると思います。

SNS について

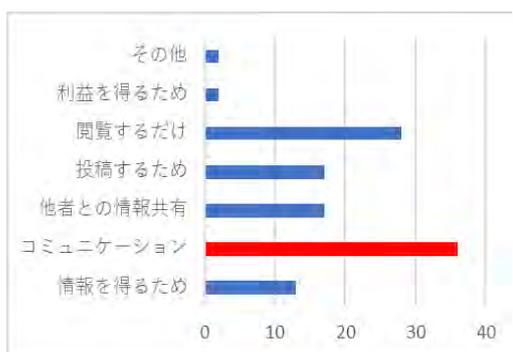
1日に使用時間



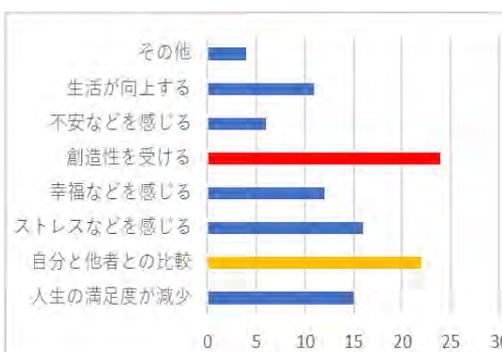
使用する SNS



使用する目的 (複数回答可)



SNS から受ける影響 (複数回答可)



SNS は、遠く離れた知人、家族、知らない人とも容易に繋がることのできる、とても便利なものである一方で、調査の結果からマイナスな側面、特に精神的な問題を抱えやすいアプリであると改めて感じました。生活する上で幸福を感じるよりも、ストレスを抱えるなどの意見が多いからです。私も何気なく使用する SNS のメッセージ機能ですが、少し立ち止まって考えてみると、実際には、私達は繋がっていないのだと考えました。メッセージを送った相手の今を知ることはできない。どのような気持ちで過ごしているのか分からない。もし私の友人が実際は辛い思いをしていたとしても、小さなスクリーンの画面を見るだけで、「幸せに過ごしている、大丈夫だ」と判断してしまう。特に私たちの世代は、人生における幸せの基準を、この小さなアプリによって決められていると感じました。最近の私たちの世代が、古い物に関心を持ったり、自然が良いと思うのは、日々心のどこかで小さなストレスを抱えている証だと思います。

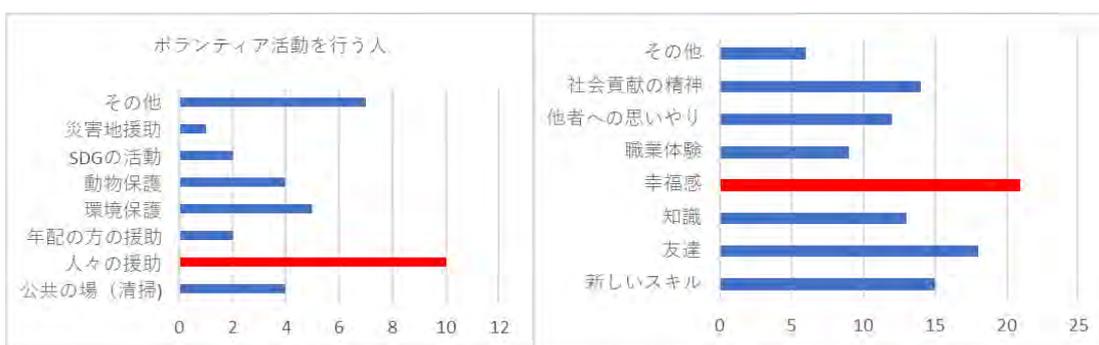
マイナスの側面を挙げればきりがなく、プラスの側面も多く含んでいる SNS であるけれど、幸せそうに見える人ほど、心に寂しさや悲しさを秘めているかもしれないことを頭

の片隅に置いて、私自身も上手に SNS を使用したいと思います。

ボランティア活動について

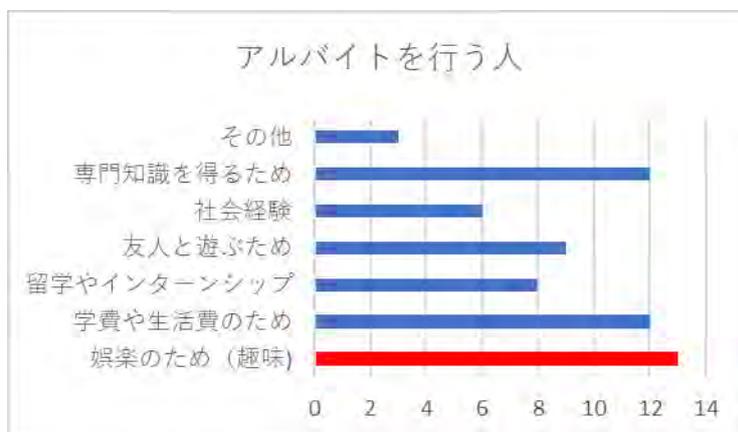
ボランティア活動の内容

ボランティア活動から得た事（複数回答可）



アルバイトについて

アルバイトを行う理由



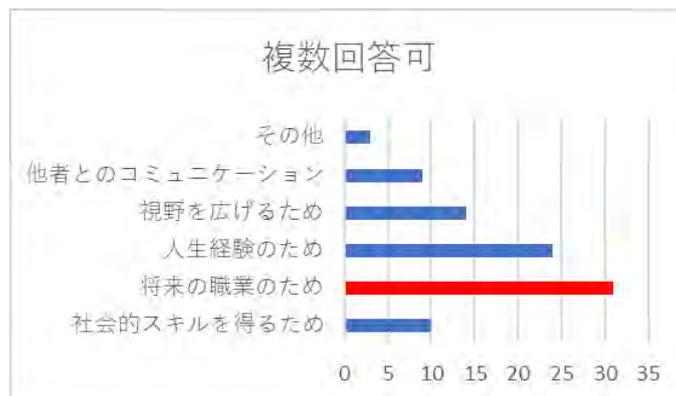
ボランティア活動を行う学生は思ったより少ない割合でした。ボランティア活動内容は、公共の場を清掃することや環境保護などよりかは、助けが必要な人のために何か行動するという内容が1番多く、ボランティア活動から得た事で最も多いのが「幸福感」という結果から、自分自身と他者を幸せにする取り組みとして必要な活動であるのだと感じました。学生時代において、他者のために何かを行うという経験は重要であり、勉強では得られない事を通して、人間関係を構築し、人間性を育てていくのだと思います。

日本人学生はアルバイトが中心になる生活であると感じます。日本人学生も就活の時期になればインターンを始めますが、学生生活のほとんどは趣味や娯楽のために、アルバイトをしているという印象を受けます。2大学の学生は、ボランティア活動やアルバイト

よりも、学生生活を通して自身の掲げる目標達成のために、インターンシップに重きを置いていると感じました。

インターンシップについて

インターンシップを行う理由

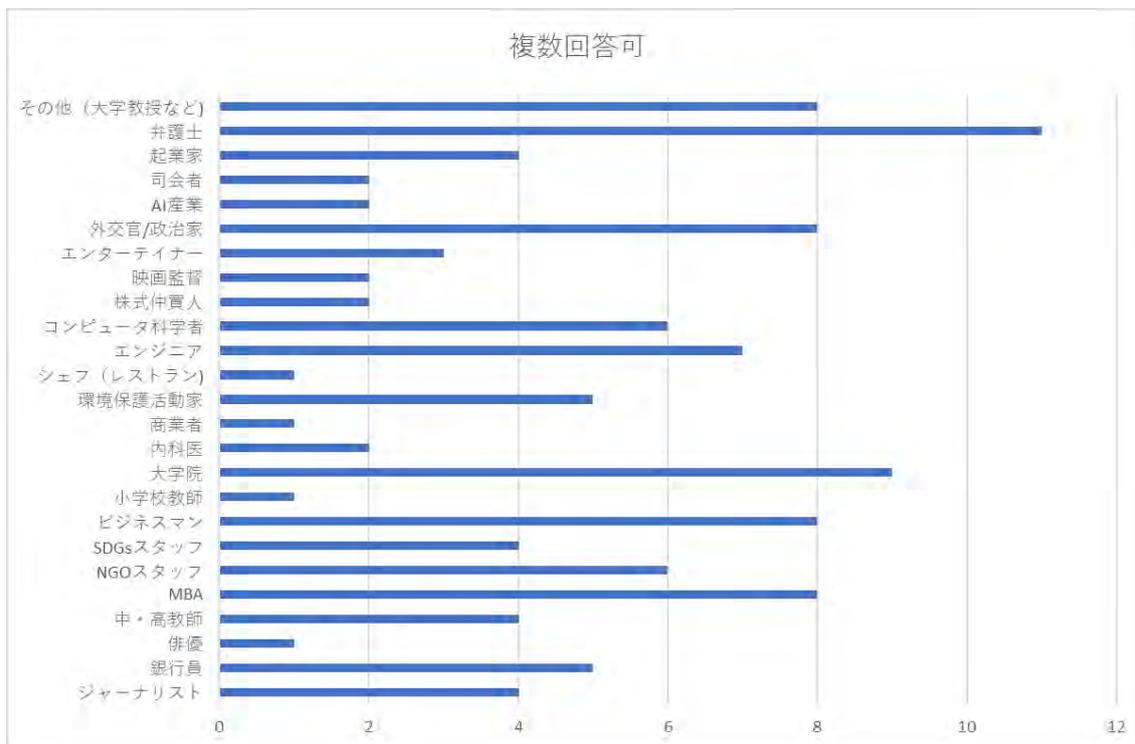


インターンシップ (種類)

- Computer Science
- Planning on Journalism
- Data Management
- Research in development economics
- Financial analyst
- Boeing-sustainability
- Graphic design
- Law
- Local charity
- New York State Assembly (government)
- Banking
- Global projects (NGO)
- Film development
- Medical など

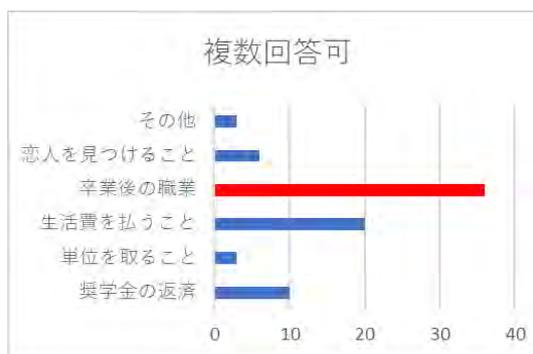


卒業後の進路希望一覧（職業）

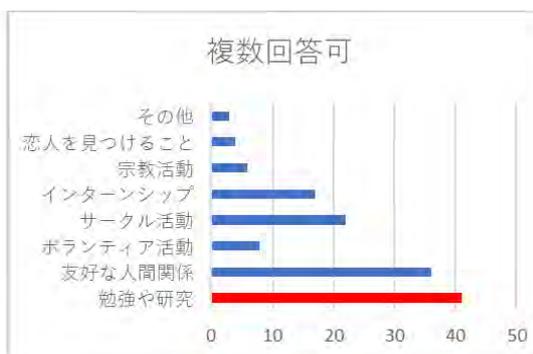


学生生活について

学生生活での心配事



学生生活で重要な事



苅谷剛彦著者、『アメリカの大学・ニッポンの大学、TA、シラバス、授業評価』では、アメリカの学生が勉強に励む理由として、「大学院への進学や企業への就職」また「アメリカでは専門的な職業教育は主に大学院レベルで行われており、大学院進学には成績が重要である」(p.218)と記されている点で、学生生活で心配な事として「卒業後の職業」が最も多いのは確かであると思いました。日本では、大学を卒業すればある一定の職に就くことがで

きるけれど、アメリカでは大学を卒業したからといって、自分自身が何に長けているのか、またアピールするポイントとして何かなければ職に就くことは難しいのではないかと思います。自分の将来に確実というものはないから不安になる。アメリカの学生、あらゆる国の大学生も皆同じだと思います。学生生活で重要な事として、当たり前ではあるけれど「勉強や研究」が最も多く、それと同じくらい多いのが「友好的人間関係」です。私自身もとても大切であると実感しています。大学生活での人間関係は、自分自身の大学生活がどうなるのかを決めると思います。私が充実した大学生活を過ごしているのは、先輩や友人、その他の方々に恵まれているからだだと思います。人は、充実した人間関係に幸せを1番感じると聞いたことがあります。大学生活は、人それぞれで経験する事が違うけれど、宝物になる思い出のかけらが沢山溢れていると思います。

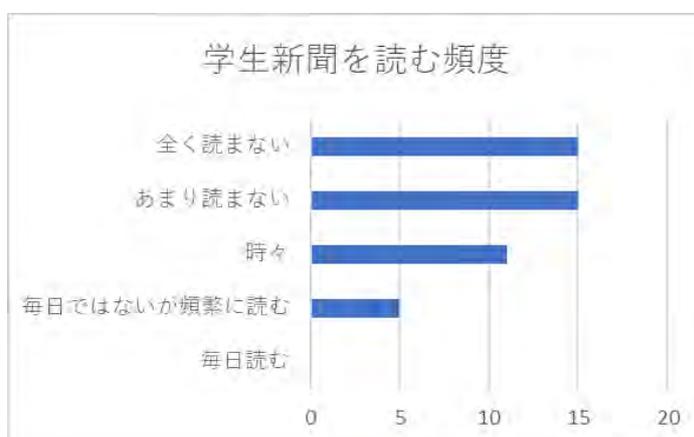


参考

¹苅谷剛彦.グローバル時代の大学論①アメリカの大学・ニッポンの大学 TA.シラバス授業評価.中央公論新社, 2012, 274 p.

²辻太一朗.なぜ日本の大学生は世界でいちばん勉強しないのか.東洋経済新報社, 2013, 221 p.

学生新聞について



情報源（学生新聞以外）

- ・ New York Times ・ ソーシャルメディア ・ 家族や友人
- ・ Web ニュース ・ BBC ・ 学部 など

学生新聞に対する印象

1. Lots of students
 2. The Harvard Crimson can be informative for Harvard-related issues but could focus on more nationwide issues
 3. I don't think about it
 4. Good source of Columbia-focused news
 5. N/A
 6. Excellent publication
 7. Weird staff, cause a lot of controversies sometimes, but a well-run organization with good writers
 8. I hate it
 9. People like to share their stories
- など

学生新聞を読む学生は思ったより少なかったです。学生新聞に対する印象の結果は、見ていてとても面白いと思いました。2大学の学生は、情報を学生新聞よりもニューヨークタイムズやSNSから受けとることが多く、家族や友人から受け取るという回答も多かったです。

学生新聞に対して、「生まれた場所の情報をもっと学生新聞に取り挙げてほしい」、「変なスタッフがいる」「嫌いだ」などの意見もあり、自身の大学の学生新聞に対して、自分の意見を様々に持ち、情報を発信する側へしっかりと意見を述べることのできるだけの知識を養っているのだと感じました。私は自分の意見を述べるだけの知識や物の見方を持っていない、これからさらにそういった力を身につけようと思いました。

学生新聞編集局でのアンケート調査は、結局断られてすることができなかったけれど、この調査でさらに情報を発信するという立場に興味を持つきっかけとなりました。またジャーナリストになりたいという気持ちも強くなりました。アメリカでジャーナリストになりたいと考えていましたが、今の私は、日本についてですら何も知らないのだと調査を行い知ることができました。アメリカで活躍できるように、まず日本についてしっかり学んでいこうと思います。

自分が何に1番関心があり、もっと学び知りたいのか、まだしっかりと定まってはいませんが、人を助けることのできるジャーナリストを目指して、天理大学で学びながら見つけていけたらいいなと思います。

3.お世話になった方々へ

約2週間ありがとうございました。正直、研修前は人に対して距離をとるような感情を持っていたので、ニューヨークセンターやアレハンドロさんのお宅には宿泊するだけで、あまり深く関わりたいと思っていませんでした。また、私はかなり高慢で、8つのほこりに全て当てはまる人間でした。今もそうかもしれないです。調査を行いながら、一人で過ごして自由に羽を伸ばそうと考えていました。だけど、皆さんと出会って過ごしていくうちに一人で過ごそうという気持ちはなくなりました。むしろ一緒に居たい気持ちの方が大きかった。その日の調査が終われば、早くセンターに帰りたかったです。ニューヨークで過ごす毎日を想像して楽しみにしていたけど、何においてもあまり惹かれずにただ歩くだけでいいやという感じでした。それくらい皆と過ごす毎日の方が有意義でした。

私が本当に一番伝えたい事は、ありがとうだけです。皆が優しく、温かく接してくれて、明るいエネルギーがみなぎりすぎているから自分も笑顔になれました。ずっと一人になりたいと思っていたけど、同じくらい孤独も感じていたから、皆さんの優しさがとても心地良かったです。本当に感謝しています。



ボストンでアレハンドロさんのお宅で宿泊させてもらっている時には、私の話に理解を示してくれて、自身の経験を通して色々な言葉をかけてもらえたことにとっても感謝の気持ちでいっぱいです。自分自身のお父さんに言われているような感覚でした。今の自分ではだめなのだと気づきを得て、自分の今まで悩んできた事が、何もたいしたことがないような、心が軽い気持ちになりました。



以前は何をしても無意味に感じていたし、身近にある幸せは何もないという気持ちで過ごしていました。今は周りにある物や人に感謝を感じることができていると思う

し、自分自身の弱さと欠点に向き合っている段階です。誰に何を言われても自分を変えようと思わなかったけれど、皆さんの言葉と姿から沢山何かを感じ取った気がしています。

自分を変えようと思わせてくれるきっかけを与えてくれてありがとうございます。素敵な方々と巡り会えて、私は幸せ者だと思います。またいつか再会できたら嬉しいです。本当にありがとうございました!!!!!!



おわりに

2週間を振り返ると、一人で両大学へ行き、本当に広大なキャンパスで様々な学生と出会い、刺激をもらい、落ち込んだり、日本で経験できないことを2週間で全て経験したように思います。私は実際とても内向的で、知らない人に話しかけたり、電話をすることさえ苦手です。だけど、調査を行う前は自分の力を過信して、歴代の先輩の方で約100人近く集めておられる方もいたので、すぐに集まるだろうと考えていました。

実際に行ってみると、その考えは浅はかであると分かりました。本当に大きなキャンパスで、自分はここで調査をやるのかと気持ちがおれてしまいました。学生はみんな忙しそうにキャンパスを移動し、観光客ですら学生に見えるほど、学生の圧倒感に自分が情けなく感じました。この研修を行っている際にずっと頭の中で考えていたことは、「もうコロンビア大学やハーバード大学に行きたくない」でした。

自分の弱い部分が全て現れて、結局自分に負けて逃げてしまいました。アンケート調査を頼んだ時に笑われたり、アンケートを行っている際に、通りすがりにからかわれたり、何気ない事で自信を無くし、どんどん自分のやるべき事が見えなくなっていました。アメリカでジャーナリストとして働きたい、生活していきたい、そう思っていました。しかし、1人で街を歩き行動することができても、今の自分にはアメリカで何もすることができないのだと知りました。母親に「海外へ旅行することができる。それだけでいいんじゃない？」と言われたことを思い出して、その通りである自分が悔しかったです。研修中は、自分が求める自分と、現実の自分とのギャップの差に落ち込み、泣いてしまいました。英語ができて当たり前前の世界で、今私が社会に貢献できることは何もなく、日本ですらないと感じました。日本に帰ってきて感じている事は、自分が本当に弱い人間であるということです。

この研修で学生から学んだ事は、「一日一日、ただ自分のやるべき事をする」ことです。とてもシンプルな事であるけれど、アンケートに答えてくれた学生はそれを徹底していた

ように思います。課題をすることや後回しにしたいことも必ずやる。それが目標に近づく最短の距離であるのだと学びました。また、その日のやることリストなどを作り一日のやることを明確にしている学生がほとんどでした。優れた学生は何か特別な事をしているのではないかと考えていたけれど、本当に単純で誰でもできる事をただ継続しているだけでした。

コロンビア大学で調査を行っている時に、大学院生である一人の女性に声を掛けました。その方は、分厚い薬学の教科書を黙々とテラス席で勉強していました。私の調査を快く引き受けてくれ、些細な会話にとっても興味を持って聞いてくれました。アンケートの調査内容に学生新聞の項目があることから、私がジャーナリズムに興味があるのだと理解してくれました。その時は自信を失っていたので、私はジャーナリストにはなれないと思うと伝えました。すると、「なれなくてもいいから、ただ毎日学び続けることが大切だよ」と一言だけ言ってくれました。当たり前の事を言っているかもしれないけれど、私の心に刺さるとも優しい言葉でした。結局、調査中は自信を失いっぱなしで過ごしていたけれど、何かを一生懸命学んでいる人は、人を包み込む包容力があり、他人を尊重できるのだと感じました。その方が一番心に残っていて、私の目指すべき姿であると思います。

そして、今回の研修で1番学んだ事は人間性です。研修に行く前の私は、全ての物事を悲観的に捉えて不足をしていました。自分に起こる全ての嫌な事は、親の責任であるのだと思いこんでいました。幼い頃から、「なんで自分がこんな思いをしないといけないのだろうか」と考えて、幸せな出来事よりも嫌な出来事の方がより目につくようになっていました。研修中も、まだ先の見えない出来事に不安でした。しかし、ニューヨークセンターやアレハンドロさんのお宅で過ごしながら、今の自分ではだめなのだと気づかされました。センターのスタッフさんは皆、お兄ちゃんお姉ちゃんのように接してくれて、まだまだ子どもである自分を優しく受け入れてくれました。また、アレハンドロさんは今の私に必要な言葉を、真剣に向き合っただけでなく、なげかけてくれました。海外研修で出会った方々が皆、自分を変えようと思わせてくれるきっかけを与えてくれました。温かくて、本当に優しい人達に囲まれながら過ごすことができた事にとってもありがたさを感じています。

今までの人生を振り返っても、私の周りにはいつも優しい人達で溢れていました。何か困った事や嫌な事があればいつでも話を聞いて、励ましてくれる友達。私にとって友達は本当に一番大切な人です。その友達に出会うことができたのは、お母さんが天理に私を連れてきてくれたからであるのだと気づくことができました。沢山不足して迷惑をかけて、わがままである私に多くの経験と出会いをくれたお母さんに今とても感謝しています。

この短くて長いような、充実した2週間を過ごさせて頂き本当にありがとうございました。まだまだ未熟で子どもである自分から、さらに成長できるようにこれからも精進していきたいと思います。この海外研修に関わって頂いた全ての方に感謝しています。本当にありがとうございました。

栗山佳子